

テーマ：食とエネルギーの地域循環

日 時：2018 年 11 月 30 日(土) 13:30～17:40

場 所：長野大学 9 号館 3 階 リプロホール

アクセスマップ：<https://www.nagano.ac.jp/outline/access/index.html>

キャンパスマップ：<https://www.nagano.ac.jp/outline/campus/>

費 用：無料

趣 旨：

2015 年 9 月に国連サミットで採択された SDGs（持続可能な開発目標）は 2030 年までの国際目標となっている。これに対し、わが国では「持続可能な強靱な国土と質の高いインフラ整備」、「省エネ・再エネ、気候変動対策、循環型社会」など 8 分野の SDGs 実施指針が示されている（2018 年 6 月閣議決定）。さらには、地域の活力を最大限に発揮する「地域循環共生圏」の概念が、第 5 次環境基本計画に含まれるなど、より一層、持続可能な地域づくりに向けた基盤整備、人材育成等が求められている。

長野県は、2030 年の将来像を展望した総合 5 カ年計画（しあわせ信州創造プラン 2.0）が評価され、2018 年には SDGs 未来都市に選定された。一方、同県は多様な農山村地域があり、その自然環境の保全や文化、歴史の継承等、多角的視点をもって取り組まなければならない課題が山積している。このような課題解決は、当学会が果たすべき責務でもあり、全国各地の諸問題への糸口を見出される点で大変有意義である。さらには、全国各地で起きている「田園回帰」は同県においては顕著であり、移住者による地域資源の掘り起こしは枚挙に暇がない。一次産業（農林業）はもちろんのこと、バイオマス資源や太陽光等の再エネ利活用による地域資源の「地消地産」が活発であり、農山村地域における先進的な取り組み姿勢は見習うべきところが多い。

そこで、この度のシンポジウムでは、食とエネルギーをテーマに多種多様な農山村地域のあり方を同県の政策や取り組みをとおして議論し、2030 年ならびに 2050 年の農山村地域の姿を参加者ととともに創造していくことをねらいとする。

プログラム（案）：

1. 開会挨拶 13:30～13:40
2. 第Ⅰ部 基調講演 13:40～14:40
「農村の持続可能な未来を切り開く地域循環共生圏」
中島恵理（環境省 大臣官房 環境計画課 計画官）
3. 第Ⅱ部 事例報告 14:50～15:50
報告 1 14:50～15:10
報告者：大久保 憲一（長野県根羽村 村長）
報告 2 15:10～15:30
報告者：和栗 剛（NPO 法人 わっこ谷の山福農林舎 代表）
報告 3 15:30～15:50
報告者：古田 睦美（長野大学環境ツーリズム学部 教授）
4. 第Ⅲ部 総合討論（パネルディスカッション） 16:00～17:30
コーディネーター 糸長浩司（日本大学生物資源科学部 特任教授）
コメンテーター 青柳みどり（農村計画学会 会長）
登壇者 基調講演者、事例報告 3 者
5. 閉会挨拶 17:30～17:40
6. 交流会 18:00～20:00（会場：長野大学食堂）